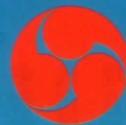


略記



一遠江国 宮小國神社

okuni

jinja

<http://www.okunijinja.or.jp>



新東名 森掛川インターより約15分
遠州森町スマートI.Cより約7分
東名 袋井インターより約20分
富士山静岡空港より車で約40分

詳しくは小國神社
ホームページをご覧ください

一遠江国 小國神社

〒437-0226 静岡県周智郡森町一宮3956番地の1
TEL.0538-89-7302 FAX.0538-89-7367

<http://www.okunijinja.or.jp>

E-mail:okunijinja@technowave.ne.jp



公式ウェブサイト特設ページで
スペシャルムービー公開中

小國神社のはじまりから現代までの社史を物語

小國神社ものがたり

ご祭神とともに



御由緒の概略
御祭神



神社名
小國神社

鎮座地

静岡県周智郡森町一宮
三九五六番地の一

御祭神
大己貴命

御神徳

大己貴命は、豊葦原瑞穂国（日本の美称）を開発し、農業・林業・鉱業・医療の技術を人々に授け、稲穂の稔る豊かな国に造り上げ、悪神を平定し、国土を統治されました。その後、天孫（天皇陛下のご祖先）に国土をお譲りした御事績から、国土開発・福德円満・縁結び・開運厄除・林業・農業・医療の守護神として敬われています。

また、霊験あらたかなご神格を示す多くの神名をお持ちで、**大國主命**、**国作之大神**、**大穴牟遲神**、**大物主神**、**宇都志国玉神**、**大國玉神**、**葦原醜男命**、**八千矛命**とも称えられています。



御由緒

社名「小國（おくに）」は、「神を祀る神聖な場所」または「神が鎮まる神聖な場所」を意味します。創祀は神代と伝えられ詳らかではありませんが、延宝八年（一六八〇）の社記によると、欽明天皇の御代十六年（五五五）二月十八日に本宮峯（本宮山）に御神霊が鎮まったことから、人々が祭祀を始めたことと伝わります。後、山麓約六キロメートルの現在地に社殿を造営し、大宝元年（七〇一）二月十八日に勅使が奉幣、十二段の舞楽（現在の古式十二舞楽）を奉奏されました。以後、年々神階が昇格したことが様々な歴史書に記されています。（続日本後記・日本三大実録・延喜式）



総檜皮葺きの荘厳な大社造のご本殿

元龜三年（一五七二）家康公は、神主に命じて御神霊を別所に遷し、願文と三条小鍛冶宗近作の太刀を奉り戦勝を祈願した後に、火を放ち全ての社殿を焼失しました。その後、祈願が叶ったことから、天正三年（一五七五）家康公は家臣本多重次に命じ、本社を再造営。同十一年（一五八三）十二月七日、末社・拝殿・廻廊を造営、同十三年（一五八五）楼門を再建しました。慶長八年（一六〇三）八月二十八日家康公はさらに社領として五百九十石の朱印を奉り、その後、元禄十年（一六九七）には將軍綱吉公が横須賀城主西尾隠岐守に命じて社殿を改築、寛保元年（一七四一）將軍吉宗公より四百両の修復料を寄進されました。

明治六年六月十三日、国幣小社に列格。明治十五年三月八日火災のため、御本殿以下社殿を焼失しましたが、明治十九年に再建し、同年九月二十五日遷座祭を斎行しました。

平成十五年九月十四日、秋篠宮文仁親王殿下同妃紀子殿下の御親拝を賜り、平成十八年十一月八日、神宮祭主池田厚子様が御参拝、平成二十九年四月二十九日には、高円宮妃久子殿下のご親拝を賜りました。

境内地

中古以来社領は、一宮の上の郷・下の郷、円田の藪田郷、森の太田郷・天宮郷の五ヶ郷三百六十町を有し、江戸時代には五百九十石の朱印、東西一里南北一里半の境内を有しました。（社記及び諸社寺御朱印御条目枢要摘書）

現在、境内地は約三十五万坪に及び、勅使参道跡も現存します。四季折々の草花が各所に咲き揃い、「癒しの斎庭」として全国より多くの人々が参拝に訪れます。

社殿 総檜皮葺き大社造（本殿）

明治十五年の火災後、明治十九年に同じご祭神をお祀りする出雲大社より、図面を借用し再建されました。間口及び奥行三間二尺七寸・高さ四丈三尺で出雲大社本殿約半分の規模を有します。令和二年十二月には、「檜皮採取・檜皮葺」の技術がユネスコ無形文化遺産に登録されました。

奥警戸神社（本宮山）例祭：一月六日／青葉祭五月六日

本社の北約六キロメートルに位置する本宮山山頂（標高五一メートル）に鎮座。大己貴命の荒魂をお祀りします。遠江国（現在の遠州地方）のほぼ中央に位置し、山頂から天竜川、遠州灘を望む景色は絶景です。

祭典

◎例祭（大祭）四月十八日 十八日に一番近い土曜日・日曜日には「古式十二段舞楽」を奉奏、日曜日には神輿渡御を行う神幸祭を斎行します。

◎祈年祭（大祭）二月十八日 その年の豊穣と諸産業の繁栄を祈願する祭典です。

◎新嘗祭（大祭）十一月二十三日 収穫と繁栄に感謝する祭典で、祈年祭と対をなす祭典です。農産物の品評会、即売会もあり大いに賑わいます。

◎疫神齋（中祭）十一月十九日 疫病鎮めの祭典で夕刻に行われます。本社の御祭神をはじめ、流行病に関わる神々をお祀りし、疫病退散を祈ります。

◎大祓式 六月三十日（夏越）・十二月三十一日（師走）年二回、心身ともに清らかな姿に立ち返る神事です。どなたでも参列が出来ます。

◆特殊神事芸能◆

◎古式十二段舞楽（国指定無形民俗文化財）四月十八日前後の一番近い土曜日・日曜日に毎年奉奏します。大宝元年の勅使奉幣・舞楽奉奏を起源とし、天下泰平、地域の平安と繁栄の祈りとともに氏子により連綿と受け継がれています。

◎田遊び（国選択の記録すべき無形民俗文化財）一月三日 創始は鎌倉時代といわれ、天下泰平・五穀豊穣・家畜安全を祈願します。田作りから刈り入れまでの所作を模倣的に演じます。

◆特別祈祷期間◆

◎厄除大祭 一月二十日～二月三日 厄年・黒星・八方塞などの厄除祈願を執り行い、特別な御守を授与します。県内外から多くの人々が祈願に訪れます。この期間には、「破魔弓矢」の限定授与も行います。

◆宝物◆

徳川家康公奉納の三条小鍛冶宗近銘の太刀二振、大身槍一振。本殿裏の経塚より出土した古鏡・経筒の他、遠州報國隊の連判状・感状等数点



厄除大祭



本宮山からの絶景



古式十二段舞楽 抜頭



例祭